

保護者のみなさま

箕面市立第二中学校
校長 俵積田 武志

学校教育自己診断の報告について

早春の候、保護者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。平素は本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年(2023)年11月、保護者のみなさまを対象に箕面市内同じ内容で、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの提出の回収率は約81%(昨年度-5%)でした。集計結果及び考察を以下にまとめましたので、ご報告いたします。今後も、一人ひとりの子どもたちの良さを認め伸ばしていけるよう、保護者のみなさまとの連携を大切に、教職員一同、力をあわせて頑張っていきたいと思いますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

★集計について
質問は30項目で、以下の選択肢で回答を求めました。
A)よくあてはまる B)ややあてはまる C)あまりあてはまらない
D)全くあてはまらない E)わからない
質問をグループに分けて、3年間の肯定的回答(A+B)%の集計を並べました。

■教育方針、全般的なことに関して

設問	項目の内容	R3	R4	R5
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	78	79	78
2	子どもは、自分の学級が楽しいと言っている	84	81	78
10	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている(教育目標を含む)	70	76	66
26	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている	56	62	58

設問1「学校に行くのを楽しみにしている」と設問2「自分の学級が楽しいと言っている」に関しては、80%近くの肯定的回答がありました。また、ご家庭でお子さまの様子を見て、またはお話しされ、「そうでない」と20%近くが回答されています。学習面、友だち関係、生活面など、壁にぶつかることや悩んでしまうことなど心が揺れる3年間でもあります。子ども一人ひとりの課題に寄り添いながらサポートを続け、安心できる学校づくりに努め、「学校や学級が楽しい」と感じる子どもたちを増やしていきたいと思えます。

設問26「校長のリーダーシップが…」と設問10「学校は、教育方針をわかりやすく…」に関しては、校長から学校全般に関する情報を二中ブログで記事として発信させていただいています。今後も二中ホームページの「校長から」のページや二中ブログ、デジタル連絡帳「トモリンクス」などを活用した情報配信を積極的に行ってまいります。

■保護者・地域に関して

設問	項目の内容	R3	R4	R5
11	学校は、保護者・地域の願いに応えるよう努力している→(R5より)学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し、保護者・地域に教育活動の支援ができる機会をつくっている	71	77	66
12	学校は、保護者の相談に応じてくれる	75	82	80
20	学校は、家庭への連絡や情報提供を行っている	84	87	83
22	学習の内容や進度(行事)等を懇談や学級(学年)通信などによって知ることができる	74	83	77
23	デジタル連絡帳によって、学校との連絡がスムーズになった	40	59	66
28	電話での問い合わせや学校を訪問した際、担当者が明確で迅速かつ丁寧な対応が行われている。	75	78	77
29	学校、学年、学級に決められているルール等は、子どもの状況にあった適切なものになっている。	64	69	61

設問11「学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し、保護者・地域に教育活動の支援ができる機会をつくっている」と設問内容が詳細となりました。月ごとにPTA運営委員会を開催し、教育活動にご支援いただく機会の調整等を行っています。ただし、学校の課題の共有となりますと、個人情報等に十分配慮して報告する必要があり、難しさやリスクを感じているところであります。また、学期ごとに学校協議会を開催して、学校の現状や昨今の教育課題に関するディスカッション等を活発にしてきており、「二中の窓」（学校だより）や二中ホームページで発信していきたいと思っています。

設問12・20・22・23「保護者の相談などご家庭との連携」「家庭への連絡や情報提供」に関しては、担任や学年教員から学級通信や学年だよりをプリントやトモリンクス通じてお知らせしております。また、トモリンクスでの欠席連絡など保護者の方々と連絡がスムーズになってきたと思います。今後、個人情報等に注意を払い、複数教員による確認を心がけ、うまく活用ができればよいと思っています。

設問28「保護者の方への電話の対応…」に関しては、できる限り、丁寧にわかりやすく対応していくことを心がけてまいります。

設問29「学校、学年、学級のルール等…」に関しては、子どもたちの意見等を聴き、教職員と話し合いながらルールの変更等を決めていきたいと思っています。

■授業・評価に関すること

設問	項目の内容	R3	R4	R5
3	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	59	58	59
4	子どもは、家庭学習を自主的に行っている	59	55	56
8	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている	66	69	65
24	通知票は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている	71	78	76
5	子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。	44	56	55
6	子どもは、タブレット端末での学習（デジタルドリルを含む）に意欲的に取り組んでいる	41	36	26

設問3「授業が楽しくわかりやすい」に関しては、学校全体肯定的な回答の割合がアップするよう授業づくり研究に力を注いでいます。3年間で掲げたテーマを紹介します。

■令和3年度（2021年度）→「授業をつくる全員が『学ぶことは楽しい』と実感できる授業をめざして」
～認め合い、高め合い、学びを楽しめる子～を育てたい～

■令和4年度（2022年度）→「子どもたちが熱中する教室」
～モチベーションを上げるしかけづくり～

■令和5年度（2023年度）→「生徒主体で学び合い」～自信あふれる環境づくり～
協働学習をすすめながら基礎学力の定着をめざす研究

すべての授業において、たくさんある情報の中から必要なものだけを選び取る力（情報選択能力）、わかりやすく他の人に伝えることができる力（伝達力）、あきらめることなく自分自身を高めていく力（向上心）など、数値化はできないが求められる能力、いわゆる「非認知能力をつける」を意識し、「わかった!」「次のステップにいける!」「みんなとできた!」という「自信がもてる授業づくり」にとりくんできました。「そうでない」回答の割合（29%）を真摯に受け止め、今後も学校全体で「授業が楽しくわかりやすい」+「学力向上」にこだわりながら授業づくりの研究を進めていきたいと思っています。

設問4「家庭学習を自主的に…」に関しては、MJT（モーニングスタディ→自主学習→朝テスト）のサイクルを年間で継続してとりくんでいます。また、昨年度よりテスト範囲（提出課題を含む）を2週間前と1週間前にアナウンスし、「自分で日々の計画を立てて家庭学習にとりくみましょう」と家庭学習の大切さを伝えています。先日、あるテレビ番組で「小学校

の宿題の在り方に変化が」という情報コーナーがありました。「全員に同じ宿題」そして提出に疑問をもった先生たちが一律の「宿題」ではなく「家庭学習」として家庭で自ら勉強したことを次の日に先生が「今日は何を勉強してきたの?」と聞き、子どもが答えることや、みんなの前で発表する方法に変えてみたという内容でした。何に取り組むかは家庭で相談して決める。自分に必要な学習や興味関心について考えることで、自ら進んで学ぶ力をつけることがねらいとのことです。私は中学生自身の家庭学習こそこうになるべきだと思っています。MJTサイクルは家庭学習と基礎学力の定着を目的にしています。本校においてもMJTサイクルの在り方等を検討していきたいと思います。ご家庭でもご協力いただきますようお願いいたします。

設問8「先生は、子どもの評価を適切・公平に…」設問24「通知表は…」の肯定的な回答の割合をもっと上げたいとの思いで先生たちには「評価の妥当性」という言い回しで何度も強調し、子どもたち一人ひとりの評価に向かってもらっています。引き続き、適切(ふさわしいこと)・公平(偏らないこと)を、先生同士が確認しあい、子どもの評価にあたってまいります。

設問5「英語で発表…」に関しては、英語の先生とALTの先生たちで日々コミュニケーションをとりながら授業づくりをしています。2月16日(金)に箕面市教育委員会の方が3年生の英語の授業を参観されました。生徒たちがテーマの課題解決においてオールイングリッシュで積極的に対話している様子を見て、「英語の先生とALTの先生たちと生徒たちに良好な関係性がないと、こんな素敵な授業は成立しません。ほんとうに感動しました。」とお話いただきました。日常の学校生活においてALTの先生たちが子どもたちに手を振りながら気さくに話しかけ英語でコミュニケーションをとってくれているからこそ、二中に和やかな雰囲気がさらに加わって、英語に親しみやすい環境になっていると思います。今後もそのような環境づくりに頑張っていきたいと思っています。

設問6「タブレット端末(デジタルドリルを含む)での学習…」に関しては、MJTサイクルや教科授業にとりいれていきたいと思っています。新しい生活様式<情報化社会から超スマート社会(Society5.0)>の中で必要とされる能力であることから、積極的な活用をすすめていきたいと思っています。

■生徒指導・生徒理解・教職員に関すること

設問	項目の内容	R3	R4	R5
7	先生は、子どもたちを十分に理解している	64	69	65
9	先生は、子どものまちがった行動を指導してくれる	77	72	71
13	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	69	72	65
21	学校では、子どもたちの個人情報を守られている	75	80	74
27	子ども同士のトラブル等に対し、丁寧できめ細やかな対応により早期解決が できている	52	51	48

各学年・学校全体で「子どもへの理解」「子どもへの指導」「いじめ防止へのとりくみ」「丁寧な対応・早期解決」を心がけてとりくんでまいりましたが、すべての設問において肯定的回答の割合が下がっています。教職員一人ひとりが子どもたちに対し、「第一に聴き、理解したい姿勢を示し」「理解の上で正しく指導」「よりよいステップが踏める言葉かけ」を大切に、子どもたちへの理解および指導をなお一層進めていきたいと思っています。

■人権教育・オンライン・小中連携などさまざまなとりくみに関すること

設問	項目の内容	R3	R4	R5
14	学校は、子どもに生命を大切に作る心や態度を育てようとしている	72	73	69
15	学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている	73	75	70
16	学校は、オンラインを活用したとりくみ（授業・懇談・補習など）を積極的に進めている。	85	80	72
17	学校は、ICT 機器の取り扱いについて、子どもに丁寧に説明している。	68	64	47
25	学校は、小中連携を行っている。（箕面市は小中連携を進めています。）	56	64	61

設問13「いじめのない学校づくりに…」設問14「子どもに生命の大切に作る…」設問15「子どもの人権を尊重…」に関しては、各学年・学校全体でさまざまな題材を通してとりくんでいます。ゲストティーチャーから子どもたちに「自分のこと、仲間のこと、地域のこと」を深く考えてもらいたい内容をお話ししていただくことや、例えば1年生では「地域学習」、2年生では「SDGs学習」、3年生では「進路学習」などを通してお互いを認め合い、差別やいじめを許さない心を育てています。各学年がさまざまな人権教育にとりくむなかで、校長から子どもたちには集会のたびに願いを込めながら「みんな やさしくなりました？」と声をかけて表情を確認しています。今年度は肯定的回答の割合が下がりましたが、子どもたちの心に届きやさしさのある行動にうつせるような人権教育と生徒指導に力を注いでまいります。

設問16「オンラインの活用…」と設問17「ICT 機器の…」に関しましては、コロナが5類に移行されたことでオンラインの活用が減ったことが理由として考えられます。ICT の活用については、授業等におけるタブレット端末の積極的な活用も進め、教職員から子どもたちに丁寧な説明を心がけていきたいと思っています。

設問25「小中連携」に関しては、本校から保健体育の教員が北小・萱野小・萱野北小の5,6年生の体育の授業で小学校の先生と一緒に年間を通して授業を行ってきました。そのため、1年生も2年生の子どもたちの特徴等は把握しながら教育活動を行うことができています。また、各小学校からもよい評価をいただいています。さらに、今年度は11月に授業づくりの研修を、12月に人権教育の研修を、大阪府の公開授業研究会と位置付けて、校区（かやの幼稚園・萱野保育所・3小学校・二中）の全体研修を実施しました。校区の教職員同士の情報連携および学びの場となりました。11月末の新入生体験授業においては、二中学生会役員から北小と萱野北小の6年生にこの夏に咲いた「はるかのひまわり」の種の贈呈し、萱野小の6年生にはお礼の手紙を渡しました。二中校区がともにあたたかい空間となるようとりくんでいます。これからもともにさまざまな活動ができればよいと思っています。

■危機管理・施設管理に関すること

設問	項目の内容	R3	R4	R5
18	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に周知されている。	92	92	90
19	学校の施設・設備は学習環境において満足できる。	70	73	67
30	学校は新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行っている。	79	81	60

自然災害や新型コロナウイルス感染症や不審者被害に関する対応の情報発信は、引き続き学校メール（ライデンメール）及びトモニクスからお伝えいたします。また、現在、大雨や台風の被害でグラウンド周辺のネットが大きく破損し、体育館の屋上からも時々雨漏りがある状況であり、箕面市教育委員会に強く修理依頼をしているところであります。子どもたちが安心して学校生活が送れるように、日頃から施設・設備の点検をして対応を心がけてまいります。

ここからは校長が話し口調で綴ってみました。ご一読いただければと思います。

<染髪について>

あなたのお子さんは

染髪していますか？

今、したいと思っていますか？いずれしますか？しませんか？

なぜ今はしないのですか？させないのですか？

では何歳からは OK ですか？大人になれば勝手ですか？

さて、9月の文化祭で、10月の体育祭で発表や種目に参加していたことに対してご意見をいただきました。

文化祭では箕面市人権宣言を並んでアピールしました。

体育祭では学年種目に出場し、自身の役割を先生のそばで果たしていました。

「そもそもダメ!」というご意見の方が多いのだと思います。

せめて「髪の色を黒に戻して参加させるべき」というご意見だと思います。

「二中の先生は何も指導していない!」なのでしょうか？

二中の先生でどうするべきかをみんなで悩んでいます。

日頃から本人には話をします。諭す場合もあれば厳しめに指導することもあります。

また、お家の人と何度も連絡をとって話もします。

先生たちにも意見の相違が出てきます。話し込んでいる先生ほど「ちゃんとさせて出したい」と。

先生と子どもたちでぶつかります。

前日まで、当日の直前まで言い続けます。

ほとんどが「ちゃんとして」当日頑張ってくれます。

その当日が文化祭や体育祭なのです。

「ちゃんと」した子どもが「なんで!…」と直接向き合った先生に納得いかない態度で言ってきます。

損なことなのでしょうか？

「ちゃんと」したことをしっかりと認めて「それでいい!・それがいいの!」と返します。

お家の人もそう返してほしい。

当日、「ちゃんと」しなかった子には罰的な対応が必要ですか？

当日、みんなと参加させて「『ちゃんと』してほしかった!今度は『ちゃんと』するぞ!」と思いを伝えます。

もちろん、お家の人にも伝えます。

私が先生たちにそのように向き合ってほしいと伝えています。

少しでもみんなと参加すると子ども同士で新しい関係が生まれます。

クラスに居場所ができます。いいこと、そうでないこともあります。

また、次の対応が始まります。

学校はそんな毎日なのです。

<服装等について>

あなたのお子さんは

生徒手帳にあるように標準服を着て登校していますか？それとも、させていますか？

周りの様子を見て少しずつ着崩していますか？

ブレザーを着ていますか？シャツインしていますか？していませんか？

フード付きのトレーナーを着て登校していますか？

スカートの下に体操服の長ズボンをはいて登校していますか？

二中は生徒手帳にあるように標準服を着て学校生活を送ることが基本です。

「ブレザー着なさい!」「シャツインしなさい!」「スカートの下に体操服の長ズボンやめなさい!」と

厳しい口調では指導していません。

先生が厳しく言うから「ちゃんと」しなければならないのでしょうか？

二中は生徒手帳にあるように標準服を着て学校生活を送ることが基本なのです。

ならば、子どももお家の人も守るようにするべきだと思うのです。

でも、一人ひとり、お家ごとに「基本を守る」のスタンスも大きく異なります。

正直、学校とお家が「基本を守る」のスタンスを言い争うのはあまり意味がないような…。

生徒会役員と先生たちで話し合いをしました。

防寒着やフード付きのトレーナーを着たまま授業を受ける子と、ブレザーを着て授業を受ける子などの意見の出し合いがありました。

「ブレザーを着ている人は校則を守っているのに…。」「みんなもっと守るべきだ。」

十分わかる。

損なことでもない。

私から「生徒手帳の内容を変更する?」「私服の学校もあるよ」と聞くと、

「変更まではしない」「変更すると、これはどうなんなど次のものが出てくるから」

「今の着こなしがちょうどいい」という意見も…。

お家の人は「もっと学校がきちん指導するべき」「学校が注意しないから…」のご意見が多いかも。

「ちゃんと」ってどういうことでしょう？

今の時代だからこそ

「ちゃんと」標準服を着ること、授業をはじめとする学校生活を「ちゃんと」送れることを

子どもたちにとって意味のあるように、話し合っていきたい。

<スマホについて>

あなたのお子さんはスマホをお持ちですか？

どうしてスマホをもたせるのでしょうか？

中学生になると持っている人がほんとうに多くいます。

とにかく何をするのも便利です。

きっとお家で約束をしているはず。その約束のもとでお家の人が持たしています。

二中は生徒にもお家の人にも

「許可なくスマホを学校にもってくることはいけません」

「持ってくる場合は、先生に預けましょう」

と伝えています。

そうできる人であってほしいです。

そうできない人はカバンに、ポケットに…。

結果、先生にバレて没収されようものなら…。子どももお家の人も様子が…。

いったん持ってしまうと何よりも大事なものになってしまうスマホ。

ほんとうに怖いものです。

学校は人と人との関係性を築く場所でもあります。

だから、いい時とそうでない時があります。

そうでない時に、もめごとが起きます。

スマホの時代。

悪口、陰口、嫌がらせ、画像が勝手に…、仲間はずし…。SNS が付随したいじめ事案に。

ショックを受けます。

いろんな人たちが知ること…。不安と怒りが…。

いじめの定義では学校内外は問わずとある。学校はなんとかしようと対応します。

うまく解決に至らないときに、お家の人からは「どうしてくれるんですか」と…。

考えてほしいのです。

学校でスマホを使ったトラブルならまだしも、

学校外、お家の中でスマホを使っての SNS がほとんどでなんです。

お家の人が子どもに約束させたはず。

お家の人に大きな責任があるはずなのに…。

大きな事件になると、世間は「学校悪」という流れに。

（私の造語「学校悪」…学校の対応で「できていない」「していない」ことで「学校が悪い」ということになりがち）

加害側の子やお家の人への対応に苦しんでいるのに。

「学校に力がない」「どうせ先生なんて」と…。

何かおかしい！

学校の対応で「できていない」「していない」ことを指摘されることはかまわないのです。

被害の側に立つこと、そして事態が悪化しないこと、その行為を反省させること

子どもたち、先生、お家の人で落ち着いて話し合いたい。

それが絶交でも、修復でも、しばらく距離をとるでもかまわない。

子どもたちの よりよい明日をめざしたい。